

勸善 懲惡 讀切講釋

女ハ奸佞の深死との忠臣たる人をもて得  
 無死とのにせんといふ又それ為ハ我身を  
 ぬるめふ旬岩藤が惡計みたる泪の墨  
 染みたる中老尾上が書置ぬきへし記念  
 の上草履つとほりたる草履のあつら  
 明けとぬれぬおほひひり引返したる部家の内  
 身をかこちたる碓者のたしをれと奥庭の  
 意恨のぞろぞろと續きたる打ちたる髪屑の  
 觀音とをも取得し主人の仇を報せし  
 名もち婢の初をて二代つづく中老職實に誠忠の譽言とあり  
 物 之あやうしとあり 故人 鉤雪  
 流しとありふりしとあり

大水堂狸舁記



婢おと門

中老尾上

尾上  
おり九

勸善懲惡 讀切講釋 文庫10-8311-5

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

